

「原発ゼロ」をめざす行動に取り組んで

「旭川平和四団体」

安保破棄旭川実行委員会

(旭川地域一般労働組合)

はじめに

旭川平和四団体（旭労連、安保破棄旭川実行委員会、旭川平和委員会、道北原水協）は、いのち、くらし、平和を守るためにこの10年あまり一致して諸集会・学習会を開き、街頭宣伝、諸行動に参加してきた。2010年は安保改定から50年を迎えたことから、年間を通して「安保」の学習、宣伝、安保破棄へ向けての行動を企画したが、企画倒れに終わったものが多く、かろうじて6月23日の現行安保発効の日に、市役所前で集会を開き、夕方の街頭デモ行進ができた。学習会も、全市的なもの、各地域、職場ごとに、そしてテーマも「教育と安保」「農業と安保」「婦人と安保」その他……。発想はよかったが、組織的な取り組みにならず、見事に失敗に終わってしまった。講師もいるし、各種学習資料もあるのに、人が集まらない。解決策を見いだせぬまま、2011年を迎えた。さて今年は何を“目玉”にしようか、安保に関連する沖縄の普天間基地の問題もヤマ場を迎えるだろう、

T P P問題も北海道をはじめ全国で大きな闘いになるだろうと考えているうちにあの3・11の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故の発生となった。

1、震災と原発事故

震災による津波の被害を救援をしようとする動きは、すぐ始まった。市内の様々な団体が街頭に出て募金を訴える。救援物資を集め、ボランティアを派遣する団体もあった。しかし、福島第一原発の事故については立ち上がりが遅かったのではないか。それは、被害がどの程度にまで及ぶのか、「放射能」の恐ろしさは原爆やビキニ事件で宣伝されてはいるものの「絶対安全」と言われていた原発の事故は予想もできないもので、救援活動をしようにも何をしてよいか分からなかった。

雪が融けて、救援募金に交じって、「原発反対」「原発をゼロにしよう」の宣伝や署名、募金も始まった。平和四団体も協議を重ね、まずは宣伝と、「原発ゼロへ」の署名。一方では事故そのものの実態、放射能（放射性物質）とは？「シーベルト」「ベクレル」「グレイ」とは何ぞや。爆発中心地からどこまであぶないのか風向きや風の強さでどう変わるのか。考えてみればこれらのことは原爆やビキニ事件で毎年のように学習会が開かれ、勉強していたはずなのに、実際、問題が起きてみれば応用が効かない。それでは、初めから原子力そのものについても勉強しなごう。そして広めようということになり、毎月2回の街頭での行動、月一回、講師を招いての学習講演会の計画を立てることになり、実行することになった。

2、原発ゼロへの宣伝

街頭宣伝 (場所は駅前通り 2 条買物公園、時間は 1 2 時半から 3 0 ~ 4 0 分、宣伝カー 1 台)

月 日	行動参加	トーク	集約署名数
7・3	25人	4人	215筆

初めてのせい、地域からの行動参加者も多く、近所のデパートがオープンしたこともあり若い子どもずれの親の署名が多かった。行動参加者も多く、やはりこういう宣伝はにぎやかにやるのが大切と実感した。

8・21	12人	3人	60筆
------	-----	----	-----

15日に「赤紙」配布の行動あったせい、参加者は少なかったが、署名数は多かった当初、買物公園を、色々なパフォーマンスマジエてパレードをする予定であったが、警察の妨害で署名だけになった。

9・11	5人	2人	14筆
------	----	----	-----

天候のせいもあり不調であった。

9・25	8人	2人	41筆
------	----	----	-----

特徴的なことは若い高校生等の関心が低くなった様な気がした。

10・21	10人	3人	60筆
-------	-----	----	-----

行動参加者が固定的になってきた。一人で20筆集めた者もいた。学ぶ必要あり。

10・30	10人	2人	47筆
-------	-----	----	-----

岩見沢からの応援トークもあった。

3、学習講演会

何を知りたいか、市民の期待は何か、どんな講師が適当か(予算のこともある)4団体で話し合いの結果、その都度(付焼刃的に)テーマを決め、講師を選び、依頼していった。

第1回 8・10 「福島題1原発事故そのものについて」
講師 道民医連 大橋元道議 51名参加

狭い部屋が一杯になり、事故の概要、原因、処理の方法、東電、政府に責任など医学的な見地からの説明もあった。

第2回 8・26 「放射性物質とは」
講師 前旭川工業高専教授田上氏(物理学) 46名参加

少々高度な内容であったが、放射線の種類、原子力の構造などを理解した。

第3回 9・28 「幌延深地層研究計画について」 鷲見幌延町議 27名参加

いわゆる「核のゴミ」の終末処理の候補地として、その研究が行われ、町は繁栄どころ一層過疎化し、賛成派が多いかと思っていたが福島の事故以来、公然と反対を言う人も増えている。

第4回 10・27 「放射能と人体・特に体内被ばくについて」
講師 深川市立病院内科部長松崎医 69名参加

一番聞きたかった体内被ばくの問題、チェルノブイリの事故の例を参考に、特に子どもたちの被害について。現場の医師らしく、分かりやすく、放射線の恐ろしさがよく理解できた

今後の予定 街頭宣伝 11・13、27

講演 12・4 「(仮題)放射線被ばくと健康障害」 岐阜環境医療研究所 松井英介さん。

「原発ゼロへの署名をお願いいたします！」

と大声で叫び続けながらも、心の隅では「こんなんで世の中変わるのだろうか？」と思っていました。ある時ハタと気が付きました。「これは重要な啓蒙活動の一つなのだ」と。

もちろん、数を集めるのも大事ですが、一筆署名する事をきっかけとして原発の危険を認識してもらい、福島で起きた事が北海道でも、そして日本中どこにでも起こりうるという事を知ってもらい、考え、そして行動するようになってくれればいいな、と思いながら署名活動にエネルギーを注ぐようになりました。

更に、署名して下さった方々から意見や知恵を頂く事も少なくありません。ありがたい事です。

「脱原発」を訴えて署名を集めるからには、少しでも勉強しなければと思い、学習講演会に参加してみました。かなりショッキングな内容もありましたが、驚いて立ちすくんでいる場合ではないと痛感し、今の自分に出来る事は何かあるかを早急に見つけ、躊躇せずに行動しなければ！と気持ちを新たにしました。

私事ですが、自分には妻や子供はいません。でも二人の甥がいます。一人は日夜工場で働き、かつ青春を謳歌している若き労働者で、もう一人は今年中学生になったばかりの野球大好きの少年です。私はこの二人の事を思い出す度に、この国の未来を案じずにはられません。

私たちが若者や子どもたちに残す未来は豊かで希望に満ちていなければいけません。憲法で保障されている「健康で文化的な生活」を奪ってはなりません。その為には何をしなければいけないのかを考え、行動する義務が我々大人には有るはずで。

「考え、行動する」と述べましたが、寺山修司は「書を捨てよ、町へ出よう」という本を書きました。相対して、という訳ではありませんが、映画「男はつらいよ」で、寅さんが裏の工場に向かって「労働者諸君！ハンマーを捨てペンを取れ！」と叫ぶシーンがありました。

しかし今、私たちは多少無理をしてでも、学ぶ事と行動する事の両方を急いで同時進行で始めなければならないと思いました。

焦るのは良くないですが、何しろ時間が無いのは事実ですし、もしかするともう手遅れなのかもしれません。でも、手遅れなのかどうかの判断は後世の歴史家と、成長した子どもたちに委ねるとして、私たちは今できる事を探し、即実行するしか選択肢は無いと思います。

街を歩くと、いつの間にかエコロジーを重視した自動車が珍しくなくなっている事に気が付きません。近い将来、石油に頼らなくても世の中はちゃんと機能していけるはずです。ならば、原子力に頼らなくても私たちの生活は成り立つはずですし、科学やテクノロジーはそういう世界の実現のために、つまりは安全なエネルギーによる安心して暮らせる生活のために存在すべきだと思います。先人から受け継いだ知恵を、戦争や紛争のために使ってはいけない。人を殺す兵器のために使ってはならないのと同じだと思います。人間は本来、もっと賢いはずで。

老若男女さまざまな方から署名を頂きました。幼子を連れてお若い御夫妻、お歳を召した方、高校生などなど。そういった方々から学ぶ事が多いゆえに、私は「活動しながら勉強できる」わけで、原発も戦争も基地も無い世の中を目指して、行動しつつ学んでゆきたいと思います。